ブロック塀の診断カルテ

A．基本性能の診断〔基本性能値〕

診断項目		基準点	評価点
建築後の年数	10年未満	10	①
	10以上、20年未満	8	( )
	20年以上	5	
高さの増積み	な し	10	②
	あ り	0	( )
使用状況	塀 単 独	10	③
	土留め・外壁等を兼ねる	0	( )
塀の位置	塀の下に擁壁なし	10	④
	塀の下に擁壁あり	5	( )
塀の高さ	1．2m以下	15	⑤
	1．2mを越え、2．2m以下	10	( )
	2．2mを越える	0	
塀の厚さ	15cm以上	10	⑥
	12cm	8	( )
	10cm	5	
透かしブロック	な し	10	⑦
	あ り	5	( )
鉄筋	あ り	10	⑧
	な し	0	( )
	確認不能	0	
控え壁・控え柱	あ り	10	⑨
	な し	5	( )
かさ木	あ り	10	⑩
	な し	5	( )

基本性能値（①～⑩までの評価点の合計）〔 A 〕

B．壁体の外観診断〔外観係数〕

診断項目		基準係数	評価係数
全体の傾き	な し	1.0	⑪
	あ り	0.7	( )
ひび割れ	な し	1.0	⑫
	あ り	0.7	( )
損傷	な し	1.0	⑬
	あ り	0.7	( )
著しい汚れ	な し	1.0	⑭
	あ り	0.7	( )

外観係数（⑪～⑭の最小値）〔 B 〕

C．壁体の耐力診断〔耐力係数〕

診断項目		基準係数	耐力係数
ぐらつき*1	動かない	1.0	C
	わずかに動く	0.8	〔 〕
	大きく動く	0.5	

＊1　診断する場合は、周囲に人がいないことを確認し、必ず前方へ押して下さい。

D．保全状況の診断〔保全係数〕

診断項目		基準係数	保全係数
補強・転倒防止対策等の有無	あ り	1.5	D
	な し	1.0	〔 〕

診断結果の判定

1．総合評点（Q）を求めましょう。

基本性能値		外観係数		耐力係数		保全係数		総合評点（Q）
A	×	B	×	C	×	D	＝	

2．総合評点（Q）から、診断結果を判定しましょう。

安全性の判定と今後の対応

ﾁｪｯｸ	総合評点	判定	今後の対応
□	Q≧70	安全である	3～5年後にまた診断して下さい。
□	55≦Q＜70	一応安全である	1年後にまた診断して下さい。
□	40≦Q＜55	注意を要する	精密診断を行い、再度判定するか転倒防止対策等を講じて下さい。
□	Q＜40	危険である	早急に転倒防止対策を講じるか、撤去して下さい。

※　診断結果は、あくまでも目安です。専門家による精密診断を受けると、より正確に判定できます。